

# 産業部門(取組の方向性)

## 取組の方向性

産業部門は、北九州市の温室効果ガス排出量の約6割を占めており、鉄鋼業等の素材型産業からの排出が多く、石炭や石油などの化石燃料の使用による二酸化炭素の排出が大半を占めています。

このため、

- ①徹底した省エネの実施
  - ②電力部門への再エネの導入
  - ③化石燃料を使用している工程の電化
  - ④電化が困難な部分への新たなクリーンエネルギー(水素等)の導入
- を基本的な考え方とし、企業のイノベーションの早期実現を支援します。



省エネ(事業活動の省エネ化)

電化+電源の脱炭素化

水素等の普及

イノベーションの推進

# 産業部門

施策	取組概要
北九州市グリーン成長戦略の推進	エネルギーの脱炭素化とイノベーションの推進に向け、「北九州市グリーン成長戦略」の取組を推進します。
風力発電関連産業の総合拠点化の推進	響灘地区の充実した港湾インフラと広大な産業用地を活用し、風力発電関連産業の総合拠点の形成などを図る「グリーンエネルギーポートひびき」事業を推進し、今後主流となる浮体式洋上風力発電拠点形成に向けた検討を実施します。
第三者所有方式を活用した太陽光発電設備等の導入補助【再掲】	第三者所有方式を活用した太陽光発電設備等の導入を行う事業者に対し、導入費用の一部補助を行います。
水素社会の実現に向けた実証・PR	脱炭素社会・水素社会の実現に向けて、東田地区の水素パイプラインを活用した水素関連の各種先端技術の実証を支援するとともに、本市の取組みを市内外に向け広くPRします。
水素の供給・利活用拠点の形成による水素拠点化の推進	市内における水素拠点形成を推進し、地元企業の脱炭素化と国際競争力強化、市内への新たな産業集積につなげるとともに、市内外へ水素拠点化の取組を発信します。
「北九州GX推進コンソーシアム」を基盤にした市内企業のGXの推進	市内企業のGX推進に向けて、「北九州GX推進コンソーシアム」を中心に、最先端の研究開発や産業集積の推進、ビジネススクールの開催による人材育成、専門家による無料相談・現場派遣、GX分野への取組みに関する補助などを行います。

## 産業部門

施策	取組概要
農林水産業のスマート化の支援	農業者の高齢化や担い手の減少による労働力不足の解消を図るため、最先端のDX技術等を活用して省力化や高品質生産を実現する「スマート農業」の実証試験等を実施します。また、これまで長年の経験や勘で行ってきた漁業の効率化を図るため、大学と連携して最新の漁場や水産資源に関するデータを収集し漁業者に提供することで、漁業生産性の向上に繋がります。
イノベーション創出に向けた研究開発の支援	産業用ロボットの用途拡大ニーズに応える研究開発を産学連携で強力に進めるとともに、人口減少、高齢化による労働力不足の課題を有する地域企業にロボット等の導入支援を積極的に行い、生産性革命を推進します。

62

## GX(グリーン・トランスフォーメーション)①

エネルギー安定供給、経済成長、脱炭素(温室効果ガスの排出削減)の同時実現に向けた社会変革の取組のことをいいます。

日本が強みを有する関連技術等を活用し、経済成長・産業競争力強化を実現

2050年カーボンニュートラル等の国際公約



- ロシアによるウクライナ侵略等の影響により、世界各国でエネルギー価格を中心にインフレが発生
- 化石燃料への過度な依存から脱却し、危機にも強いエネルギー需給構造を構築

出典:第16回GX実行会議資料(2025年12月22日)

63

# GX(グリーン・トランスフォーメーション)②

- ・国は、2025年12月、重点分野(※)ごとにGXの方向性と投資促進策等を取りまとめた「分野別投資戦略」を改定(ver3)しました。
- ・本戦略の遂行により、GX投資を促進し、日本におけるGX実現を推進していくとしています。

※以下16分野

鉄鋼、化学、紙パルプ、セメント、自動車、蓄電池、航空機、SAF、船舶、くらし、資源循環、AI・半導体、水素等、次世代再エネ(ペロブスカイト太陽電池、浮体式等洋上風力、次世代型地熱)、原子力・フュージョンエネルギー、CCS

### 鉄鋼

#### 【GXの方向性】

- ・大型革新電炉・直接還元等による高付加価値鋼板製造の生産を拡大。
- ・削減価値をGX価値として訴求することで、我が国でもグリーン鋼を市場投入・拡大。
- ・同時に、高炉での水素還元製鉄の研究開発・実装を加速し、世界に先んじて大規模生産を実現。



電炉

#### 【投資促進策】

- ・大型革新電炉転換や還元鉄の確保・活用等のプロセス転換投資支援。
- ・GI基金によるR&D・社会実装加速。等

※同時に、GX価値(カーボンフットプリント: CFP、マテリアルパス、リサイクル等)の見える化や、導入補助時のGX価値評価等のインセンティブ設計等を通じた市場創造も併せて実施(他分野共通)。



12m<sup>3</sup> 小規模試験高炉(水素還元)

### 水素等

※「水素等」にアンモニア・合成メタン・合成燃料を含む。

#### 【GXの方向性】

- ・水素等のサプライチェーン構築に向けた集中投資と規制・制度による利用環境の整備を、利用・供給一体で進めるため、必要な法整備を行う。
- ・水電解装置等、世界で拡大する市場の獲得に向け、研究開発及び設備投資を促進。

#### 【投資促進策】

- ・既存原燃料との価格差に着目した支援制度・拠点整備支援。
- ・水電解装置等の生産拡大投資支援。
- ・大規模水素ステーション及びFC商用車導入促進。等

つくる



はこぶ(ためる)



つかう



出所: NEDO, トヨタ, JERA, 川崎重工, HPG提供写真より(一部加工)

出典: 分野別投資戦略(ver.3)(2025年12月26日)

# GX(グリーン・トランスフォーメーション)③

- ・国は、2025年12月、重点分野(※)ごとにGXの方向性と投資促進策等を取りまとめた「分野別投資戦略」を改定(ver3)しました。
- ・本戦略の遂行により、GX投資を促進し、日本におけるGX実現を推進していくとしています。

※以下16分野

鉄鋼、化学、紙パルプ、セメント、自動車、蓄電池、航空機、SAF、船舶、くらし、資源循環、AI・半導体、水素等、次世代再エネ(ペロブスカイト太陽電池、浮体式等洋上風力、次世代型地熱)、原子力・フュージョンエネルギー、CCS

### 次世代再エネ(ペロブスカイト、浮体式洋上風力、次世代型地熱)

#### 【GXの方向性】

- ・ペロブスカイト太陽電池について量産技術の確立、生産体制整備、需要の創出を三位一体で推進。
- ・浮体式含む洋上風力について産業競争力を強化し、早期導入を実現。





ペロブスカイト太陽電池

#### 【投資促進策】

- ・R&D・実証等の社会実装加速。
- ・生産拠点整備のためのサプライチェーン構築支援。
- ・予算・税制による導入初期の需要支援の実施、FIT・FIP制度による支援の検討(ペロブスカイト)。
- ・広域連系系統整備への金融支援。等



モデルプレートタワー浮体式基礎供電室アンカー

出所: 積水化学工業, 中央日本土地建物グループ・東京電力HD HPより(一部加工)

### 自動車/蓄電池

#### 【GXの方向性】

- ・多様な選択肢を追求する中で、EVでも「勝ち」べく、電動車の開発・性能向上への投資促進と市場拡大を一体的に実施。
- ・世界の蓄電池の開発・生産をリードする拠点として成長。





#### 【投資促進策】

- ・より性能の高い電動車の導入やユーザーの安心・利便性の向上実現と、ライフサイクルでの環境負荷の低減などを同時に実現する電動車の購入支援。
- ・生産能力拡大への設備投資。
- ・全固体電池等の次世代電池への研究開発支援。等



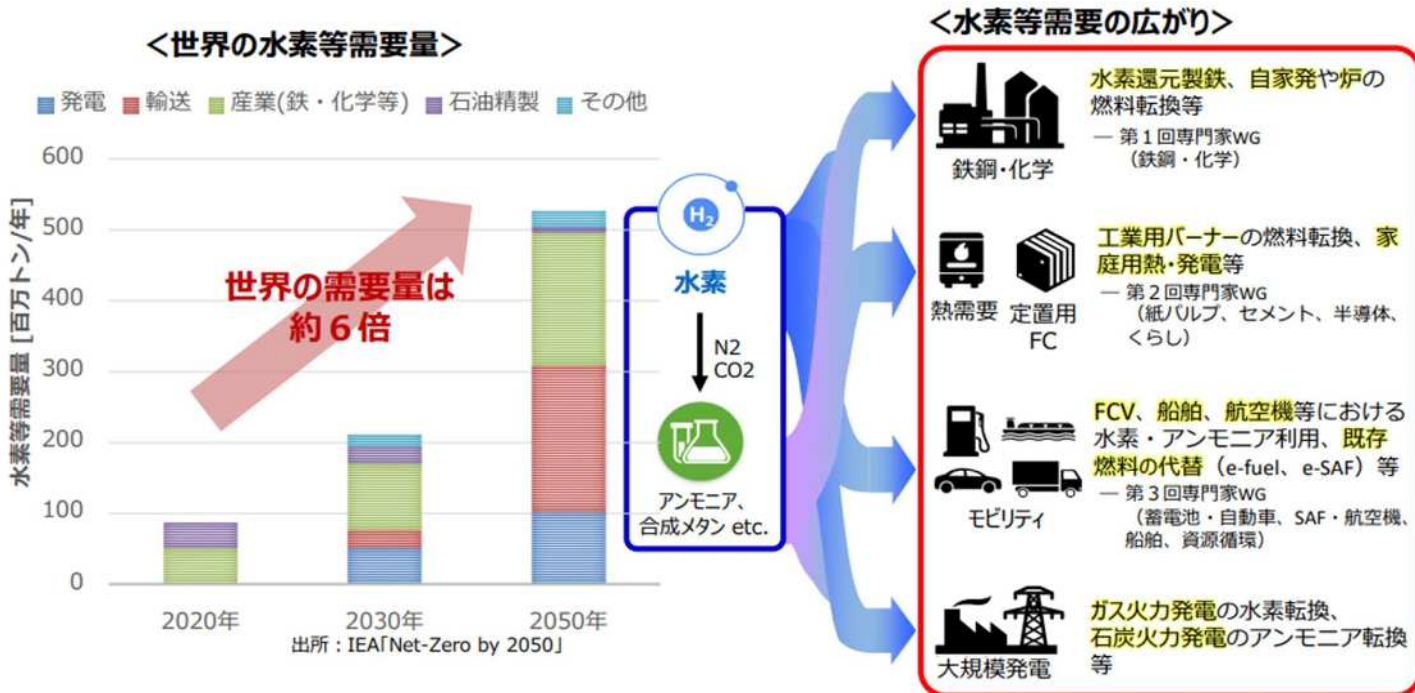

(出所) 次世代自動車振興センター、日産自動車、日野自動車、いすゞ自動車HP

出典: 分野別投資戦略(ver.3)(2025年12月26日)

# 水素等(水素社会の広がり)

水素は、カーボンニュートラルに向けて鍵となるエネルギーであり、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、世界の水素等※需要量も拡大する見込みです。

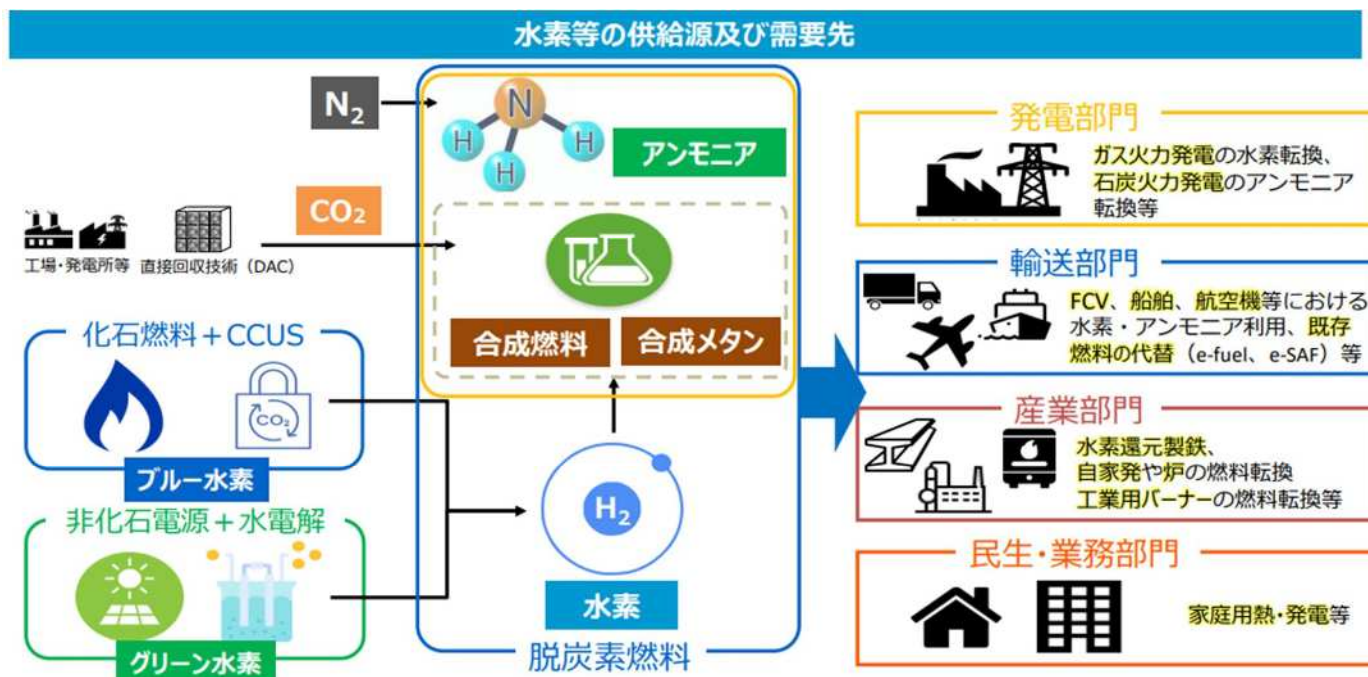
※水素等:アンモニア、合成メタン、合成燃料を含む



出典:分野別投資戦略 参考資料(水素等)

# 水素等(水素等の重要性)

- ・2050年カーボンニュートラルに向けて、水素等(アンモニア、合成メタン、合成燃料含む)は様々な用途で活用が期待される原燃料として注目されています。
- ・特に、代替技術が少なく転換が困難な、鉄鋼・化学等のhard to abateセクターや、モビリティ分野、サプライチェーン組成に資する発電等での活用が期待されています。



出典:分野別投資戦略 参考資料(水素等)